

今年も豊漁!?

木知原の今昔!

42号:24・6・28

こんなホッコリ資料も見つかりました。

ヤナ漁は奈良時代に中国から伝わった漁法で木知原でも昔から行われてきた。

特に江戸時代戸田藩主が外山郷を直轄地としてから根尾川は木知原の恵みの川となった。

絵図は外新田と赤岩間に設置した築場絵図で庄屋への許可申請に添付されたものでしょう。



年度は不明であるが「河川の様子や大藪が画かれている」ことから江戸中頃と思われる。

「赤岩」は河川図には必ず画かれている。木知原では通称「あけくわ」と呼ばれる場所や方角を表すなじみの岩である。現在も川中にその姿が確認できなつかしい。

木知原のヤナ漁は昭和30年代中頃まで続いていた。絵図の築場は赤岩であるがその年の川筋で上岩崎から赤岩間で場所を移動していた。江戸当初の絵図には上岩崎に「御やな」とある。

ヤナは「落ちアユ」とも言って8月から10月の間に産卵のために川を下り始めるアユ漁が目的であったが当時はウナギやウグイ・コイなどがよく獲れた。

夜間の築当番に同伴したが“食べ放題 OK”であった。それだけ獲れたのでしょう。

赤石の業者が毎日のように朝昼夕の3度買い付けに来ていたほどである。

さて、いつもながらの思い出話で失礼! 根尾川は死の川となりつつあるが子供の頃は、

ウナギは食べたい時に仕掛ければ根尾川・長谷川・用水路等で必ず獲れた。

ウグイが集まる(つく)とうぐいで水面が黒くなり川底が見えないくらいであった。

父親のまき網(テーナ?)にアユが一度に100匹以上かかり外すのが大変であった。

どれも今では信じられない話である。そうそう集荷場辺りの長谷川で友釣りが出来たんです。